

令和5年第3回立川市議会定例会 市長定例記者会見記録

日時・場所	令和5年9月 20 日(水)午後2時～2時 50 分	101 会議室
出席者		市側 酒井市長・田中良明副市長・田中準也副市長・大塚総合政策部長・大平行政管理部長・下河辺財務部長
出席者		クラブ側 読売新聞・朝日新聞・毎日新聞・東京新聞・日経新聞・共同通信・J:COM 東京・TokyoMX・都政新報・サンケイリビング 合計 10 社
司会進行	五箇野広報課長	

【酒井市長】

本日はお忙しいところ、記者会見にお集まりいただき、ありがとうございます。

今定例会に提出をした決算を含めた議案一式につきましては、机上にご配付をさせていただいております。

これに関しましては質問等がある場合にはぜひ後ほど担当へお問い合わせをいただければと存じます。

私からは4点、お知らせをさせていただきたいと存じます。

1点目は皆様のご关心をお持ちになっているであろう PFAS 対応についてでございます。

私の公約にも掲げておりますこの PFAS 問題への対応を確実に実施していくために PFAS 庁内対策会議の立ち上げを指示いたしました。

この PFAS に関しては、これまででも府内への情報共有や対応の検討を行ってまいりましたが、この PFAS 庁内対策会議を立ち上げることによって今後の対応を加速させていきたいというふうに考えております。

2点目についてでございますが、これは箱根駅伝予選会についてでございます。

10月14日土曜日に第100回となります箱根駅伝の予選会が開催されます。

既に皆様方ご承知の通り、今回は第100回目の記念大会ということでこれまでの関東学連だけではなく、関東以外の大学もこの予選会には出走可能となっております。例年は予選会上位10校に与えられる出場権が今回は3校増えて13校に与えられるということですので、全国の強豪校が集まり、どのようなレースが繰り広げられるのか。私も今からとても楽しみにいたします。

私の母校は中央大学でございますけれども、以前はこの予選会の常連校にいっときはなってましたけれども、今年の箱根駅伝では大変良い成績を後輩の皆さんに残していました

だいたので、この立川で後輩たちの姿を見ることができないということは、残念でありますけれども、まさにこの箱根の地を走るために大学生の皆さんがこの箱根への出場権をかけてこの立川市でレースを繰り広げていただけるということは大変楽しみな機会でございます。

今年からは新型コロナウイルスの感染症への対策を2類から5類へと変更をした中で、沿道での観戦や、声出ししての応援も可能でございますので、ぜひ多くの皆様にこの立川のまちにお集まりいただき、そして応援マナーを守りながら奮闘する選手の皆さんに温かい声援を送っていただければと存じます。

ぜひマスコミ各社の皆様この箱根駅伝の予選会でPRをしていただければと存じます。なお、スタートは午前9時35分を予定しているということでございます。

次、3点目でございますけれども、立川市でもこれまで取り組んできた案件でございますが、今、不登校等の様々な問題を抱えているお子さんたちが多くいらっしゃる中で、この間立川市においても、定時制通信制高等学校等合同相談会を行ってまいりました。

資料1をご覧になっていただきたいと思いますが、この定時制通信制高等学校相談会は、立川市子ども若者自立支援ネットワーク事業の一環として開催しています。実施内容としては各学校の教員や生徒に気になることを直接質問できるほか、学校の選び方や、在校生による座談会、教育費の補助制度など関心の高い内容の講演会を予定しております。

進路に悩む学生の他、保護者自身が進路を考えていたとき、私を含めてございますけれども当時とはだいぶ様相が変わり、選択肢についても格段に多様化をしている高校について知りたい、そういった保護者や支援関係者など、毎年多くの皆さんにご来場をいただいております。今回は10月29日日曜日の10時よりこの立川の市役所本庁舎で開催をいたしますので、ぜひ取材にもお越しをいただければと存じます。

次に4点目でございますが、立川市を本拠地とするプロバスケットボールチームであります立川ダイスですが、B3リーグ挑戦2年目を迎えることとなります。開幕戦は10月7日土曜日、アウェイのヴィアティン三重戦となります。本拠地開幕戦は10月21日土曜日の湘南ユナイテッドBC戦となっています。

その翌日の10月22日日曜日は、立川市民デーとして開催し、私も応援に伺わせていただく予定になっております。

ぜひ今シーズンの立川ダイスの活躍につきましても、マスコミ各社の皆様にはご注目をいただきますようにお願ひいたします。

なお本日16時から今シーズン開幕にあたりまして、記者会見が、ここ101会議室で開催をされる予定になっています。

ぜひ記者の皆様、引き続きご出席をいただければと存じます。

私たちのお知らせは以上となりますけれども、最後に市長に就任をして 10 日余りが経過をいたしましたので、私の所感を少し述べさせていただきたいと存じます。

9月8日に市長に就任をして、市役所にいらっしゃる多くの市民の方は、いろいろな喜び、悲しみ、そして困り事を抱えていらっしゃる。市の職員の皆さんにはぜひ、喜びには共に喜んであげられる。また、悲しみはそれを傍で支えてあげられる、そして困りごとに全てが納得のいくような形で解決ができないとしても、そこに寄り添い、その困りごとを解消していける、そういった市役所へと変えて欲しいというそういった思いでのメッセージを伝えさせていただきました。

そういうことを取り組んでいく中で、最後には市民の皆さんに、立川市役所に、ありがとうございますと言ってもらえるような市役所に変えていく。私にとっては市の職員のさんは、伴走者でございますので、一緒にその改革に取り組んでほしいということを申し上げました。

と同時に私は就任して、先週については、ほぼ市役所に缶詰状態でございました。最初に就任をした日に秘書課長に立川市内における各施設の一覧表が欲しい、というそういうお願いをいたしました。

その目的は、時間がどれだけかかるかわかりませんけれども、全ての施設を、私自身がしっかりと自分の目と耳と足を使って確認をしていきたいというふうに思っております。その目的の一つは市民サービスという観点から見て、今の窓口体制、あるいは受付相談体制で十分なのかどうかという、また実際に市民の皆さんに接している現場の職員の皆さん、あるいは委託をされている場合においてはそういう業者の皆さん、そういう皆さんにとって今の制度、今の立川市のやり方で何か問題を思っていることはないのか、どうなかいいうことを伺った上で、その現場の声を生かして立川市の市役所のあり方といったものを私は直していきたいというふうに、思っております。

なかなか時間が取れなくて全ての施設を回り切るには、先ほど申し上げた通り時間がかかると思っておりますけれども、早速9月8日に就任をいたしましたので、9月9日に、お休みの日にも立川市の窓口サービスセンターというところが土日も開業しております。

ちょっとふらっとをお邪魔をさせていただきまして、まずは現場でやはり土日のお休みの日に窓口を開設しているということは、そこに当然職員が働いているわけですので、まずはそういう職員の方がいらっしゃらなければ市民サービスの土日への提供というものもできませんので、その職員の方々には休日出勤ありがとうございますと。お礼を述べさせていただいた上で、そこに来ている市民皆さんには、まず「いらっしゃいませ、市長です。何かお困りことありませんか」ということを、お声掛けをさせていただきました。

そういうことを市民の方もされると思っていなかつたので、ちょっとびっくりされている感じはあったわけですけれども、中には私の知り合いの方もいらっしゃって、お話をさせていただいたり、またその担当の職員の方ともお話をさせていただいて、窓口業務をやっていて何か気づくことはありませんか、というお話をしたところ率直なご意見を伺いました。その詳細についてはここでお話することは差し控えさせていただきたいと思いますけれども、その話の中には確かにねと、という本当に現場の生の声をお聞きすることができました。

それとあわせて、なかなか序外の場所には赴くことができないんですけれども、私の一応日課として、朝登庁した後には、1階の部分だけは、一通りぐるりと回って、受付の業務委託をしている方にも、ご挨拶をさせていただき、市民に対応していない職員の皆さんには「おはようございます」ということ、また市民の方には「おはようございます」という挨拶と「いらっしゃいませ」ということなど、小さな一歩ではありますけれども、私自身が就任の当初にお話を申し上げていた通り、この役所が、市民の皆さんにとっても本当に役に立つ便利な所に変えていくための小さな一歩でありますけれども、スタートを切らせていただき、午後の出張などがないときには、継続をしていきたいというふうに思っております。

今、予算編成をそれぞれの担当部課が行っておりますけれども、従来の経営方針、あるいは、予算編成方針と合わせて、私自身が令和6年度に向けて財政当局、あるいはそれぞれの事業課において実現をしてほしい、心に留めてほしい、そういった内容について、私の考える予算編成に当たっての基本的な考え方という文書を別に作成し、通達という形で提示をさせていただいている。来年度の予算編成においては、従来のそういった行政からの文書とあわせて、私が基本的にどういうふうなものを考えているのかという部分についても、市職員の皆さんにはお伝えをさせていただいているつもりでございます。

そういう一つひとつの取り組みをさせていただきながら、立川市の市役所のこれまでの長き慣習、良いところはしっかりと受け継いで残していく、また手直しの必要なところは手直しをしていく、抜本的に改める部分は抜本的に改めていく。そのための素地を作っている最中でございますので、いずれ皆さん方に、立川市役所変わったねと言っていただけるような市政運営を行っていきたいと思っています。

最後に報道機関の皆様方には、本市に関することで、これを一つでも多く取り上げていただきたく、多くの方が立川市に関心をお寄せいただき、ひいては立川市に愛着を感じていただくような契機としていきたいと考えております。積極的な情報発信にも努めてまいりますので、ぜひともよろしくお願いをいたしたいと思います。

【TokyoMX 白井記者】

PFAS 対策会議の設置の経緯、具体的にどういったメンバーで運営するのか、目的などについて考えを伺いたい。

【酒井市長】

PFAS 庁内対策会議については、庁内というふうに名前がついており、まず立川市のこの庁内の中で総合政策部をはじめとして関係するメンバーで現状の情報共有を行い、予算をどういうふうに立てていくのか、ということなどを中心に検討をしていただくということを予定しております。

私も以前 PFAS の問題について、立川市においてはこれまで独自の調査を行ってこなかったというお話をさせていただいております。国分寺市では令和2年度から行っているという、そういう話もある中で、やはり現状を把握していくことが、まずは第一として必要である。

そういう中で、まずは立川市が所有をする井戸に関しては、これを相手方に了解を得る必要がございませんので、これについては早急に予算をまず見積もりを立ててどれくらいの予算がかかるのかということを今調べていただいております。その予算の内容、経費の内容がわかり次第、調査をしていくように進めていきたいというふうに思っております。

また、それ以外の市内にある民間の皆さんのが所有している井戸に関しては、これは当然相手方もいらっしゃるという問題でございますので、その相手方のご理解が得られるような対応策、また実際に PFAS が検出されてしまった場合においては、どういう形でその方に対する風評被害といったものを、防いでいくのかといった様々なご協力をいただきやすい環境を作っていくかなければ、その実行というものは難しいと思っております。2段階に分けてということで、まず予算がいくらかかるのかということをこの庁内対策会議でご検討いただき、市の井戸については早急に進めていく。そのうち、この会議の中で、実際に民間の皆さんのが所有している井戸について調査をお願いしていく、その手順やあるいはそれに伴う課題等々の整理をしていただいた上で、実施に向けて取り組んでいくための準備を進めていく、そういった会議にしていきたいと思っております。

【東京新聞 岡本記者】

PFAS 庁内対策会議というのは、トップが市長になるのか。

【酒井市長】

現在のところ副市長をトップというふうにして検討していただく予定になっております。当然副市長に任せきりということではなくて、その報告を受けて、私からも当然指示を出すと。現状では私の思いを伝えてありますので、その部分については副市長が意をくんでつつがなく会議の運営をしていただければと考えております。

【東京新聞 岡本記者】

今のお話いただいた調査については、市の保有している井戸については来年度予算などを待たずに、例えば年内とか年度内にも調査をしたい考えがあるということか。

【酒井市長】

その点についてはおっしゃる通りで、私の考えとしては、どこかで補正予算を組んで、早急に対応していきたいというふうに思っております。

【東京新聞 岡本記者】

もう1点、定時制高校の関連で見解を伺いたい。立川高校の定時制については、確かに2016年に、東京都の方で課程を廃止するという決定がされていて、今、募集自体は続いていると思うが、この計画自体は生きているという流れだと承知している。

この定時制をどうするべきか、地元の自治体の長として、どのように進めてほしいかというような要望や考えを伺いたい。

【酒井市長】

立川高校の定時制の問題については、これは東京都がご判断をされることだろうと思っております。

私も都議会議員をしておりましたので、東京都の中では定時制であるとか、単位制であるとか、あるいはエンカレッジスクールであるとか、様々な都立高校のあり方といったものは変わってきております。そういう中で私自身としては、立川市には定時制だけではなくて様々な形の学校で通信制であったりだとか、あるいは立川の中でキャンパスを設けていただいておりますが、この定時制ということに関してはそれを望んでいらっしゃる保護者あるいは卒業生の方々がいらっしゃるということは、都議会議員時代には承知しておりました。

しかしながら、立川市として都立高校でございますので、これについて存続をしてくれとか、存続をしなくてもいいかというようなことを特段東京都に要請をする考えは現

在のところ持つていません。それよりも立川市の中で子どもたちが、現実的に多様な学びの場を提供ができる情報をしっかりと集積をして、それを希望している子どもたち、あるいは保護者の皆さんに情報提供し、マッチングしていくことが必要であります。

またこの中ではなかなか救いきれない子どもたち、例えばこれは定時制だとそういった高等教育の多様性の話でありますけれども、今立川市内においても、毎年中学校義務教育卒業時に、0. 数%ではございますけれども進学も就職もしないという、そういったお子さんたちが存在しております。そういう子どもたちについても、義務教育中であれば、不登校等の問題に何らかの形で違うアプローチができるということもありますけれども、そこから外れてしまったそういう子どもたちに対しても、これから立川市政は目くばせし、そして何らかの形で子どもたちが学びの場を選択をしていただけるような支援体制を構築していきたいと思っています。

【東京新聞 岡本記者】

多様性を確保するということが大事だということだが、東京都のこの定時制廃止という考え方については、その観点においても理解できるという立場というとか。

【酒井市長】

多様な学び場を東京都として提供していただけるという、ただ定時制をなくしましたということではなく、今、元の社会教育会館があった場所に、チャレンジスクールだったと思うんですけれども、建設をしているところでございますので、そういう定時制という従来の枠にとらわれずに様々な形で子どもたちがああいう場所を作っていくことの方が私は重要だろうと思っています。

それは私が先ほどお話ししたように、私の高校時代あるいはその前の時代においては経済的な問題等で、日中働きながら定時制高校に行くということが一時代においては主流であったと思います。

また別の理由で一度全日制の学校を途中で退学をしてしまったそういう子どもたちがもう一度学びの場を求めてという、そういう機会として提供されていた時代もあると思います。

そういう過去の事例だけではなくて、今の子どもたちの要請要望といったものを受けける中で、単に定時制というそういうカテゴリーの問題ではなく、繰り返しになりますけれども多様な学びの場を経て高校の卒業資格を得られる、そして大学受験へと繋げていけるというような子どもたちが未知の可能性をしっかりと受け止められるような学びの場を確保し、そして市として経営をするということはなかなか難しいことでございますので、そういうことをやられている事業者学校等々を立川市がしっかりと連携をして情報提供し、マッチングしていくということは今の最良の手段であろうと思っています。

【朝日新聞 上田記者】

PFAS の問題で、市が所有しているのは何か所か。飲料水としてどれだけ使われているか。

【酒井市長】

今、立川市で所有している井戸は二つです。飲料用としては使っていません。

【朝日新聞 上田記者】

次の議会で、検査に関する議案を出すのか。

【酒井市長】

次の議会の中で、議会日程 25 日から 10 月 31 日まででございますので、長い議会日程でありますから、その間の期間中にこれは財政当局とも相談をしなくてはいけない話だろうと思いますけれども、私の中では、早いうち、ということをしていきたいと思っています。補正予算の提出の時期についてはまだ未定でございます。気持ちの中では早くしたいと思っています。

【朝日新聞 上田記者】

検査はいつになるのかというのまだ未定か。

【酒井市長】

予算をまず確保する、議会に認めていただく必要がある。認めていただく予算がどの程度になるのかということを今試算している最中でございますので、それをこの検討会議で明らかにして、いくら予算がかかるかを私に報告をいただいた上で、当然予算措置をできるならば、今議会中の、しかもなるべく早い時期に予算の提案、補正予算の提案をさせていただく。予算さえ通ってしまえば当然それと並行して、検査機関等々のあても付けていただくようにしますので、予算が可決をすれば、早い段階にということになりますと思っています。

【朝日新聞 上田記者】

民間の井戸で想定されるのは何か所くらいか。

【酒井市長】

これまで立川市が継続して PFAS 以外の環境基準等の調査をしていた井戸が 19 です。立川市所有の井戸が 2、それ以外が 19 ということです。そちらへは当然丁寧な協力依頼をしていかなくてはならないと思っています。

【朝日新聞 上田記者】

そこはやっぱり飲料として使われてないのか。

【酒井市長】

飲料水ではないと承知しております。

【朝日新聞 上田記者】

飲料水に関する検査はまだ先か。

【酒井市長】

立川市がこれまで調査をしてきた井戸に関しては、飲料水としては使用していないということでございます。立川市は都営水道に一元化をされております。ほぼ私どもの把握をしている範疇では、都営の水道水を飲用として用いています。

19プラス2に関しては、飲料としては利用していないということです。

それ以外の井戸に関しては、これは申し訳ございませんけれども、私たちが把握をしているというところではないです。

【読売新聞 水戸部記者】

立川市が所有している井戸は以前から一度も使っていない、ということでしょうか。

【田中準也副市長】

立川市が所有しているのは防災井戸ということで、非常時に水を供給するということです。

市内に2か所あるんですけれども、それ自体は飲料として使っていなくて、今は非常事態の場合、学校にあるタンク、それは水道から直接給水するもの、それからペットボトルを使ってということになりますので、今所有している二つの井戸は飲料としては使っていません。

【読売新聞 水戸部記者】

庁内の対策会議はいつ立ち上がったか。

【酒井市長】

昨日準備会を既に行っております。本日以降進めていくということになります。

【田中良明副市長】

市長の命を受けましたので、今週中には第 1 回の会議を立ち上げたいと考えています。

【読売新聞 水戸部記者】

会議の立ち上げは、その今週中の会議を持って立ち上がるということか。

【田中良明副市長】

そうですね、第 1 回の会議ということで立ち上げます。

【都政新報 米原記者】

選挙中に財政状況をご覧になった上で小学校給食の無償化の公約だった。令和 4 年度決算を確認して改めて見解を。

【酒井市長】

私が選挙戦のときに知り得た情報というのは令和 3 年度の決算の内容でした。この間コロナ関連経費が国や都から支給金というものが出ていたり入ったりするということで、なかなか財政状況が見えづらい状況にありました。一番端的にわかりやすいところで、実質単年度収支が黒字か赤字かというところを見たときに、令和 3 年度の予算の中では実際の収支は 12 億円黒字である、であるならば、政策実現をするための経費はあるということを御説明申し上げました。今回発表されている数字は私にとっては少々想定外でございます。

実質単年度収支という形の数字を見る限りにおいては、赤字決算になっております。その内容を詳細についてはこれから担当からもどういう理由で、歳入も増えておりますけれども歳出も増えているということで、その歳出が収入以上に増えてしまった要因というところがどういう部分にあるのかということを、私自身も私が執行した予算決算ではありませんので、担当から詳しくお聞きをしたいと思っております。

またこれは決算特別委員会の中で議員の皆さんも、ご質問されることであろうと思いますが、ただその一方で経常収支比率などの財政的な指標の数値については、内容的には良くなっているということですので、やはり、立川市の財政の中をよく見ながら、節減できる部分は節減をしながら、私の政策である小学校給食無償化をはじめとした主要な財源については確保ができるように今指示をしているところです。

【都政新報 米原記者】

令和 4 年度決算を受けて、来年度から実施される小学校給食の無償化への影響というのはないということでよいか。

【酒井市長】

それは市長の至上命題ということで、指示をしておりますので、その部分については財源確保に努めていただくということでお願いしています。